

入選

敵でも味方でも「がんばれ」

青森県 十和田湖小学校

5年 森田陽菜

わたしが親切にされて一番うれしかったことは、運動会でみんなが応援してくれたことです。

わたしは紅組でしたが、運動会当日のとちゅうの点数は、紅組も白組もほぼ同じで、とても白熱していました。最終的に勝負を決するのはマラソンでしたが、雨のために「シャトルラン」に変更になりました

「やった！マラソン自信なかったんだよ！」と喜んでた友達もいました。でも、わたしは、シャトルランは体力のげんかいまで走らなければいけないので、逆に不安になりました。

いよいよシャトルランが始まり、みんないっせいに走り出しました。最初は体力があり、制限時間の一秒前くらいには、だれもがゆかの線をふんでいました。しかし、何回も往復しているうちに、ほかの人はどんどんギブアップしていきました。

気づいたときには、わたしと白組の団長の二人だけになっていました。一番長く走った組の方に多く点数が入るので、紅組優勝のためにがんばって走りました。それからまもなく、白組の団長がギブアップしました。

（勝った！）と喜ぶと同時に、わたしもへとへとだったのでやめようと思いました。でも、みんながまだまだ応援してくれていました。今までは、（あ、応援してくれている。もう少しがんばろう。）くらいにしか思っていませんでした。でも、シャトルランのときはなぜか、（全力でがんばろう！）と思いました。

そしてその応援にこたえて、一生けんめい走りました。そのとき、とくにおどろいたことは、敵チームである白組も応援してくれていたことです。わたしなら、自分と違う組だったらあまり応援しないと思います。でも、白組の友達は、紅組の友達も自分の組と同じように、一生けんめい応援してくれていました。みんな、とても親切だなと思いました。

それからまもなく、ついに限界がきました。わたしもギブアップし、シャトルランは無事終わりました。あとで、わたしの記録を聞いたとき、とてもおどろきました。なんと、60回以上も走っていたのです。人によっては少ないと感じるかもしれませんが、私にとっては、今までで一番の記録でした。4年生のときの体力テストと比べると、20回以上ふえていたので応援の力はこんなにすごいのか、ととてもびっくりしました。

わたしは、この経験から、敵味方など関係なく、一生けんめい応援することの大切さを学びました。そういえば、去年の市の陸上大会では、他校の選手がわたしたちのリレーを応援してくれました。また、今年のパリオリンピックでは、他国の選手が日本の選手をたたえる姿をたくさん目にしました。

だから私も、だれにでも一生けんめいに応援ができる親切な人になりたいと思いました。